

ゴビンダ通信

No48

発行：無実のゴビンダさんを支える会
事務局

Justice for Govinda

- Innocence Advocacy Group

October 27, 2011

この14年間の苦しみ、早く終わらせてほしいです

無実のゴビンダです。今日は、私のために、ネパールからラタさんとインドラさんをよんで、こんな大きな集会を開いてくださって、本当にありがとうございます。この14年間ずっと、私は、神様に誓って無実を訴え続けてきました。一審無罪の私を逆転有罪にしたこうさい判決(不確定判決)は間違いです。あの事件の起きた3月8日、私は被害者と絶対に会っていません。私が知らない間に、被害者が、誰か(真犯人)とあの部屋に入ったとしか考えられません。全ての言正拠を客観的に見直して、正しい科学鑑定をしてください。そうすれば、私は犯人ではないことが、必ずわかてもらえるはずですよ。そのように裁判所に訴えてください。今年、再審言請求から6年たって、やっと新しいDNA鑑定が行われました。

その結果、再審開始への明るい希望の光がはっきり見えました。でも、検察は、これでも、また「真実」を認めようとしていません。どうしてなのか？本当に悲しくて悔しくてたまりません。私は、犯人ではないのだから、ここ(刑務所)にいる理由がありません。1日も早く、お母さんが元気でいるうちに、釈放してネパールに帰してもらいたいです。この14年間、私も家族もずっと苦しんできました。早くこの苦しみを終わらせてほしいです。

多くの方々から、長い間、私の無実を信じて支援してくださっています。そのことが、私と家族の心の支えです。

本当に感謝射の気持ちで胸いっぱいです。この気持ち、決して忘れません。

どうぞ、これからもよろしくお願ひします。
無実のゴビンダ。プラサド、マイナリ。
2011年9月8日 めごはまけいおひにて。

再審の新展開と家族来日の報告

- 7月21日 読賣新聞のスクープ「東電OL殺害再審可能性」。午後、支える会がゴビンダさんに面会。ゴビンダさん「調べてくれれば良い結果が出ると確信していた」と喜びの声。検察は、鑑定結果が「再審開始事由にならない」等の非公式コメントを流す。
- 7月25日 高検が鑑定書（大阪医科大鈴木廣一作成の鑑定書。以下、鈴木鑑定）を弁護団に開示。作成日付は7月23日（つまり完成前にリークされていた）。
- 7月26日 弁護団が、鈴木鑑定を「再審請求補充書(8)」として高裁に証拠申請。「請求人（ゴビンダさん）に無罪を言い渡すべき明かな新証拠であり、速やかに再審開始が決定されるべき」と申し立てた。高検には、刑の執行停止（釈放）を申し入れた。また、法廷外で新証拠の証拠価値に関わるコメントを行っていることに嚴重抗議した。
- 7月29日 弁護人が横浜刑務所を訪れゴビンダさんに報告。
- 8月4日 支える会と日本国民救援会、高検に要請行動・・・「再審の開始を遅れさせる行為は一切しないこと」、「ゴビンダさんを直ちに釈放すること」
- 8月10日 三者協議で、高検は、鈴木鑑定の認否について回答を保留。高裁は回答時期を一週間以内に明らかにするよう高検に要求（後に高検は9月16日までに意見を表明すると回答）。支える会と日本国民救援会が高裁に要請行動。署名 833 筆を提出・・・「直ちに再審開始を決定し、刑の執行を停止すること」
- 9月2日 高検が、突如、未開示証拠42点のDNA鑑定を行いたいとの意向を表明。
- 9月8日 被害者の胸や口に付着していた唾液からO型反応が出た（ゴビンダさんと同じB型反応は出なかった）という血液型鑑定を含む証拠が開示される。
- 9月9日 急遽、三者協議が開かれ、弁護団は鈴木鑑定以降にもさらに隠されていた証拠があったことに怒りを表明。これらのDNA鑑定については今後慎重に検討すると回答（その後、42点中15点の追加鑑定を認める）。支える会、検察の証拠隠しに抗議声明。
- 9月11日 妻ラダさんと兄インドラさんが成田に到着。
- 9月12日 ゴビンダさんと面会（1回目）。ゴビンダさんは検察の証拠隠しと追加鑑定による引き延ばしに怒り。同日、弁護団が新開示唾液の血液型鑑定を証拠申請。
- 9月14日 支える会主催「緊急集会」に出席。
- 9月15日 家族と支える会が高検と高裁に要請。署名 1140 筆を提出。司法記者クラブで会見。マリオン街頭宣伝に参加。「創」主催シンポ「原発とメディア」でスピーチ。
- 9月16日 日弁連（宇都宮会長・執行部）および弁護団に挨拶。
- 9月17日 家族と支える会、ネパールフェスティバル参加。大崎事件総会でアピール。
- 9月18日 ネパールフェスティバル2日目。インドラさん事件現場訪問。
- 9月20日 来日最後（5回目）の面会。外国特派員協会で会見。
- 9月21日 6回目の面会を試みるが規定外との理由で不許可。羽田から離日。
- 9月30日 弁護団が現時点での最終意見書を提出。
- 10月5日 検察が最終意見書（弁護団9月30日付意見書に対する反論）を11月25日までに提出すると回答。次回三者協議は11月29日。
- 10月21 追加鑑定による唾液のDNA型が、O型第三者の遺留精液と体毛のDNA型と一致したとの結果を高検が開示。（注 家族来日中の活動は、区別するため○で表示）

9-14 緊急集会の報告

9月14日(水)、文京区民センターにおいて、緊急集会「新DNA証拠で無罪は明らか！今こそ再審開始し、ゴビンダさんを故郷に帰そう！」を行いました。

7月21日の新DNA鑑定結果の報道に端を発した再審をめぐる急展開をふまえて、「支える会」が緊急招聘したゴビンダさんの妻ラダさんと兄インドラさんを交え、150名余りの参加者と、多くのメディアの取材がありました。

インドラ・プラサド・マイナリさんのスピーチ

無実のゴビンダさんを支える会の皆さま、ご来場の皆さま、ナマステ！

マイナリ一家とネパール国民を代表して、このたびの地震と津波により愛する者を亡くされた方々に対する心からのお悔やみと、皆さまに対するお見舞いを申し上げます。

ご承知の通り、今回の緊急集会は、今までとは異なる状況下で開催されています。DNA鑑定結果が明らかになって以来、人々やメディアの見方や姿勢が、肯定的で好意的な方向に大きく変わりました。

皆さんが10年以上前に始められた闘いが、いかに真摯な主張に基づいたものだったか、ゴビンダに対する正義を求めることが、いかに正当なものだったかが証明されたといえましょう。

残念なことに、検察官はいまだにあきらめず、自分たちの主張を正当化するために、今までに知られてもいなかった40数点の証拠を出現させ、この中から何か探し出そうとしています。私たちは今まで以上にこの成行きに注意し、さまざまな取り組みを強化して、ゴビンダが自由を勝ち取る可能性を危うくさせるような試みをできるだけ阻止しなければなりません。

ゴビンダを助け出すために皆さまがさまざまな手段により貢献してくださっていることは、本人とその家族にとって大変ありがたいことであるのみならず、無私の人道的奉仕の稀有な実例でもあります。

最後に、母があるインタビューで答えたことを引用させていただきます。母はこのように申しました。「息子の人生は、ある人々によってめちゃくちゃにされてしまいましたが、その彼を救い、助けてくれたのも、同じ国、日本の人々です。」

(英語スピーチの和訳。紙面の制約上、部分的に要約。全文はホームページに掲載)

11-20 再審請求審報告集会～新DNA証拠で完全崩壊した有罪判決

[日時] 2011年11月20日(日) 午後1時開場 1時半～3時半 (その後、現地調査)

[場所] 金属労働会館 301・302 会議室 (東京都渋谷区桜丘町6-2)

[内容] ゴビンダ弁護団からの報告/佃克彦弁護士・・・9月30日付最終意見書について

「10年目の現場検証」(支える会制作ビデオ) 上映と解説

現地調査(自由参加)・・・円山町および巣鴨の現場に希望者を案内

*詳細は、同封のチラシをご覧ください

面会報告

10月14日(金)、ゴビンダさんの面会に行ってきました。この日、ゴビンダさんは若草色の作業着と同じ色の帽子を手に持って、いつものようににこにこ笑顔で現れました。兄と妻が滞在中は大変お世話になりました、ありがとうございます、とお礼を言われ、きちんととした人だと、改めて思いました。

今回は10月5日の三者協議のことなど、報告することが少しあったので、私が話す時間が長かった。支える会のセミプロの写真家片川さんが撮ってくれた写真を差し入れました。差し入れる前に面会室で、アクリル板を通して一枚一枚見せながら、どこで撮ったものかを説明しました。外の身近な人たちとゴビンダさんを繋ぐ大切なメディアですから、ゴビンダさんの要望に応じていつもその時々沢山の写真を差し入れています。特に、カトマンズの家や家族の写真は大量に渡して、離れていても、家にいるような、家族にいるようなそんな気分になって貰えたらと私たちは思っています。

7日の金曜日は運動会だったそうです。ゴビンダさんはあまり興味がないので、見物していたそうです。500mlのコーラとバナナがでたとか。夕食は、パンとお菓子セットとミルクコーヒーだったとか。それで足りると聞いたなら、刑務所では常に少ないので慣れたとか。その割に痩せないなあ。やっぱり、運動が足りなくなるんですね。

そんな他愛ない話もしますが、ゴビンダさんの今の関心事はもちろん再審への動きです。三者協議の話は、検察の意見書が11月25日に出されることと、11月29日に次の三者協議が行われることくらいですという、つまらなそうでした。

警察は証拠を隠したり、嘘を言ったり、悪いことをするから信用できないと言ったあと、蓮見さんはどうして検察が新たに42点もの証拠のDNA鑑定をすることにしたと思いますかと、突然聞かれました。刑務官が脇でメモを取っているため、これまであまりあからさまな話は避けてきましたので、少し戸惑いましたが、状況の変化もあり、すでに世間ではゴビンダさんは無実という風潮があることから、かまわないと彼も判断したのだと思い、私も正直に答えました。

再審開始を先延ばしにしようということがある。何か、ゴビンダさんに不利になるような証拠を見つけようとしているのであろうが、何もやっていないのだから、そんなものがあるわけがない。(ここでゴビンダさんは「そうだ、絶対にあるわけがない」と、語調を強めて言いました)。もしあれば、それはおかしいわけで、なにかやったと疑ってしまう。それが、一番心配だ。多少曖昧な言い方をしましたが、ゴビンダさんにはしっかり伝わったようで、うん、うんと強く頷いていました。

昨日から暖かいお布団が入ったそうです。

蓮見順子

□□□ 事務局からのお知らせ

▼事務局定例会議:11月8日(火)午後6時から現代人文社にて。

▼再審開始署名へのお礼とお願い: 新展開にあわせて、署名用紙を刷新しました。これからも署名へのご協力をよろしくお願いいたします。(署名用紙はホームページからもダウンロード可)

▼ゴビンダさんに激励の手紙を出してあげてください(お名前にはフリガナを)。

[〒233-8501 横浜市港南区港南 4-2-2 ゴビンダ・プラサド・マイナリ様]

無実のゴビンダさんを支える会 事務局

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10 八ッ橋ビル7階 現代人文社気付 TEL: 080-6550-4669

e-mail: govinda@jca.apc.org ホームページ <http://www.jca.apc.org/govinda>